

ICT活用部会 ICTを活用した授業

—タブレット端末を導入したら—



- <視点1> 効果的に授業を展開するICT活用
- <視点2> 見取り・評価・支援を効果的に行うICT活用

ICT活用部会Webアドレス

<http://www.sendai-c.ed.jp/~j-suisin/ict2015/web/ict27.html>

小学校 算数

<これはいい！>
 簡単！さわれば分かる
 「進む」「戻る」「記録を残す」が思いのままに

伸び伸びと自由に試行錯誤させたいなあ。

どこでつまづいているかすぐに分かれなあ。

ノートを見比べさせたいなあ。



木村教諭

<今回の提案授業から見えたタブレット端末の利点>
 ○PCと紙（ノートや学習プリント）との中間的存在。
 ○児童が教室から移動をしなくても、いつもの教室で利用可能。

小学校5学年 算数 「比べ方を考えよう」
 ねらい:面積, 匹数が異なる場合の混み具合の比べ方を理解し, 比べることができる。

効果的な授業展開

- 意欲的な学習……直感的な操作が可能。課題の把握から試行錯誤がスムーズで、興味・関心の高まりが意欲につながっている。
- 学習の可視化……試行錯誤の様子をリアルタイムで教師に伝えながら質問することができる。
- スムーズな共有化……教育支援システムの活用で瞬時に情報共有ができる。
- 簡単な操作……キーボード不要、タッチペンを文房具感覚で操作できる。



見取り・評価・支援を効果的に

- ノートと併用で学習内容を記録
タブレットで試行錯誤、ノートに記録し、家庭で復習ができる。
- 学習意欲の持続と興味・関心の向上
教材の配付・回収・操作が即時にできる。
- 発表を意識した作業
見せるまとめ方で思考の整理が丁寧になる。

授業者より

タブレット端末の活用が、前述のように効果的であることはもとより、児童はタブレット端末の操作に関して抵抗はなく、スキル学習は不要であった。失敗を恐れずに試行錯誤できることが、意欲の持続や、興味・関心の向上につながっている。タイピングやマウス操作が必要なPCに比べ、書く・消す・直す、そして動かすのが簡単にできる便利な道具として有効性は非常に高いと感じる。

小学校での取組

詳細はWebを

・新田小学校 太宰教諭
 体育「跳び箱の実践」

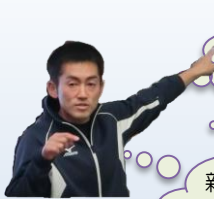
互いに撮影し、「踏み切り」「着手」「空中姿勢」「着地」等ポイントごとに仲間と分析・アドバイスし合う。撮影されることを意識し、集中力が向上。自己の動作イメージをより強く意識。

・東四郎丸小学校 佐藤教諭
 体育「跳び箱の実践」

撮影した自分たちの姿と見本の動画を比較し、課題を明確にする。課題を解決する練習方法や場所を選んで活動する学習に利用。

仙台市におけるタブレット端末活用

- タブレット端末の導入については、安定稼働やセキュリティ確保の点で課題があり、導入の在り方について方向性を見いだす段階にあります。
- この部会では、大学との連携によって先行



西村教諭

子供の思いを引き出すことができればなあ。

「朝の会」をもっと分かりやすいものにしたい。

新たな「できる」を体験させられないだろうか。

<今回の提案授業から見えたタブレット端末の利点>
 ○手軽で便利な使い方ができる媒体。
 ○コミュニケーションツールとして活用。

特別支援 朝の会

<これはいい！>
 「ワンタッチ」つながるココロ
 見える役割・意思表示

小学3学年・5学年 日常生活の指導「朝の会」
 ねらい:会の流れに見通しを持って参加する。教師の言葉掛けや補助を受けながら、係の仕事に取り組むことができる。

効果的な授業展開

- 活動に対する意識・意欲の高まり……児童の操作でプログラムが反転し、会の流れに対する見通しを持ちやすくなった。また、係児童の顔写真を表示することにより、役割分担の把握が容易になる。
- 関わり合い……役割(係の仕事・返事)を実行中の児童に対する注目度が向上し、個別の役割を全体で瞬時に共有できる。



見取り・評価・支援を効果的に

- 児童の自主的な参加
操作は至って簡単。画面をタップするだけ。教師主導から児童の自主的な活動へと転換するための支援ツールとしての可能性が広がる。
- 意思表示の一手段
選ぶことが難しかった児童の選択意欲を引き出した。児童の思いの「可視化」を実現できる。

授業者より

同様の実践はPCでも可能だが敬遠されてきた。今回、タブレット端末の活用により、持ち運びや準備の手間、長い起動時間など、PCが敬遠される条件を解消できた。さらに、操作が直感的で容易であり、活動に対する児童の参加意識、そして自分の仕事に対する意欲や自主性を高めることができた。タブレット端末は障害のある児童を支援する道具として大きな可能性を感じる。

中学校での取組

詳細はWebを

・七郷中学校 高橋教諭
 技術「材料加工・材料の特徴を調べよう」

木材の繊維方向と丈夫さの関係を思考する道具として利用する実践。班に1台で、話し合い結果を全体で共有する活動に活用。

・南光台東中学校 大沼教諭
 外国語「英作文」

共通の課題に関して4人グループに1台で、英作文を作成。英文を瞬時に回収し、大型テレビで共有する学習活動に活用。

工夫次第で教師と児童生徒の思考が、まるごと共有できること、すなわち「百聞が一見になる」を手助けし、授業のねらいを達成しやすくなるのが分かります。



鵜川教授

- 実践を試み、有効性や検討課題について整理しています。
- 一般校においては、タブレット端末の活用はできませんが、デジタルテレビや実物投影機を活用する工夫が、やがてタブレット端末の有効活用につながります。今あるICT機器を十分に活用していきましょう。